

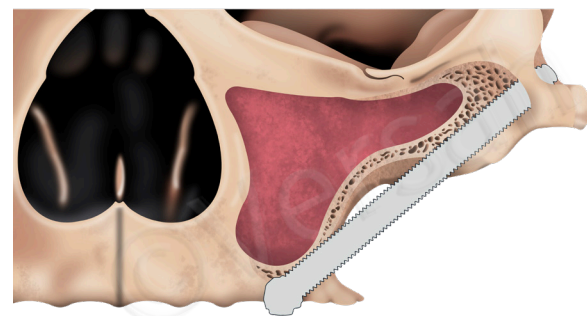
Osseodensification

上顎内/上顎外洞ジゴマプロトコル III



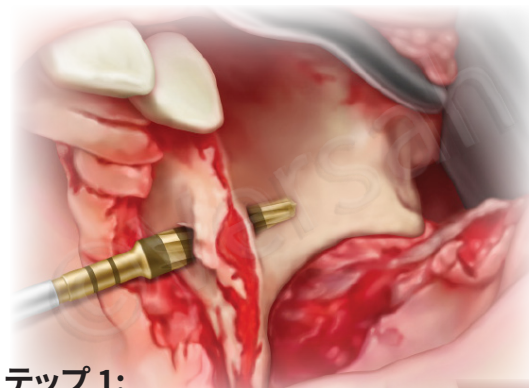
Intra-Maxillary
Extra Sinus ZGO™ Protocol III

概要: これらのケースでは、前上顎壁が非常に凹んでいます。経路は完全に上顎内であり、完全に上顎洞外の経路です。トンネル骨切りは歯槽稜を通り、外側上顎壁に入り、その後再びジゴマ体に入り、ジゴマの体の外側上部に出る2回目のトンネル骨切りとして行われます。2つのトンネル骨切りの間の上顎壁は非常に凹んでいるため、2つのトンネル骨切りの間には溝やチャネルが存在せず、インプラント体の中間部分は最も凹んだ部分に接触しません。



ステップ 1:

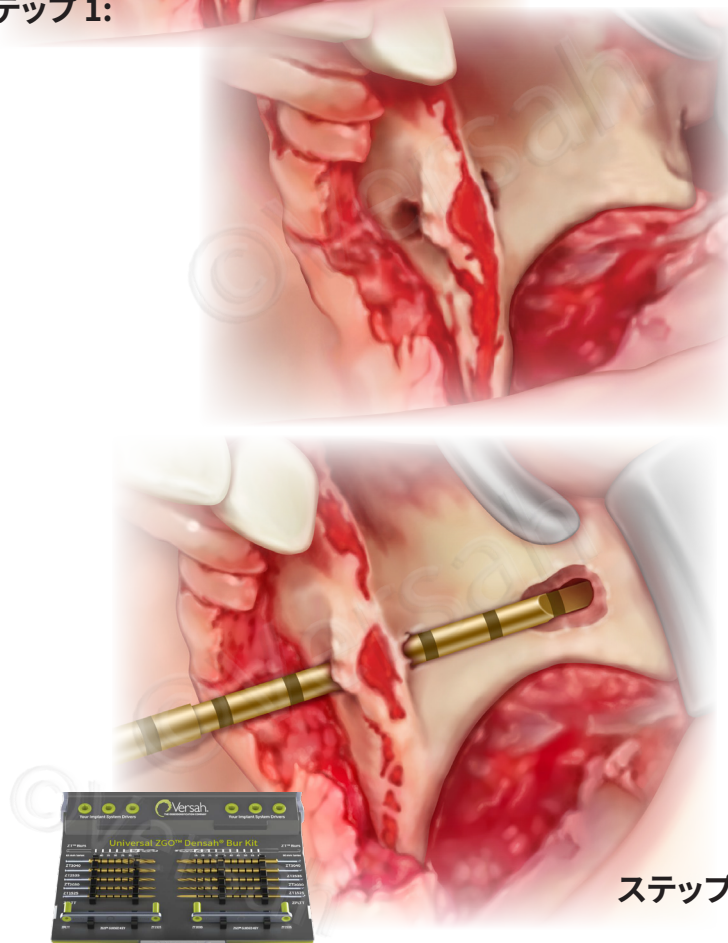
トンネル骨切りは、ユニバーサル Densah®パイロットドリルを使用して歯槽稜を時計回り (CW) で通し、上顎頬側板/前上顎壁を通り抜けます。次に、ユニバーサル Densah®バーを使用して、2mm、2.3mm、3mm、および3.3mmの順に反時計回り (CCW) で使用し、歯槽骨を保存し、骨密度を高めるための上顎洞拡大を行います。



ステップ 1:

ステップ 2:

患者の解剖学とサイズに応じて、適切な長さの ZGO Densah®パイロットドリル (65mm または 90mm) を使用し、CW モードで事前に準備された歯槽トンネル骨切りに入り、前上顎壁の凹んだ部分に沿って滑るように通過し、ジゴマの下側に入り、ジゴマの体を通り、ジゴマの体の外側上部に出るトンネルを作成します。

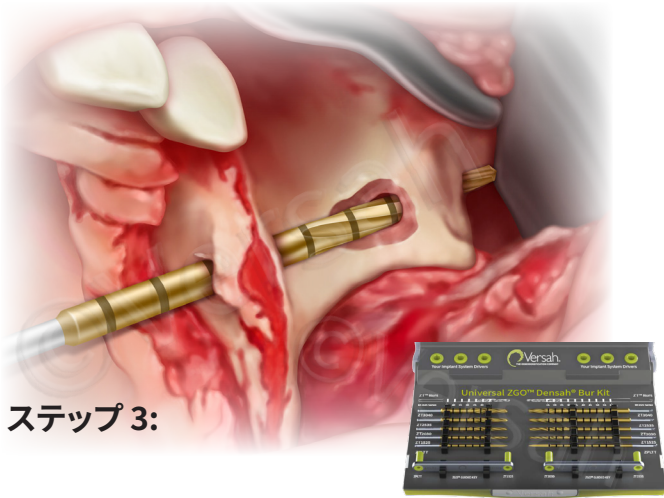


ステップ 2:

ステップ 3:

パイロット骨切りの後、患者の解剖学とサイズに応じて、適切な長さのZGO Densah®バー (65mm または90mm) を使用し、ZGO Densah®バー ZT1525を使ってCCWモードで歯槽トンネルを広げ、前上顎壁の凹んだ部分に沿って滑るように操作します。CWモードに切り替えて、ジゴマの下側に入り、ジゴマの体を通り抜けジゴマの体の外側上部に出るトンネルを拡大します。

ステップ 3:

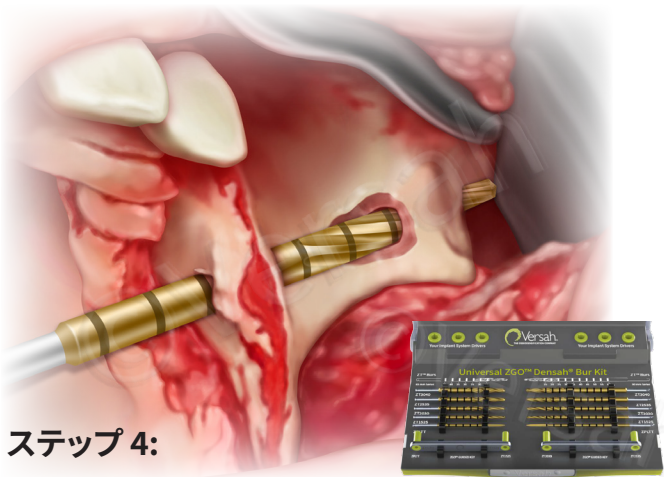


ステップ 4:

ジゴマの硬さとインプラントの直径に応じて、最終的なZGO Densah®バーの直径が決まります。例えば、ZT2535またはZT3040です。ZGO Densah®バーは、800-1500rpmの豊富な灌流を使用し、骨密度に基づいてCW/CCWモードを必要に応じて使用します。

- 1) より硬い骨の場合、時計回り (CW) 切削モード
- 2) 柔らかい骨の場合、反時計回り (CCW) 密度向上モード
- 3) 中間の硬さの骨には、Densify-Cut後の保存 (DAC) プロトコルを使用するCW&CCWの組み合わせ

ステップ 4:



ステップ 5:

ジゴマインプラントが設置されます。インプラントの頭部は歯槽稜にあります。インプラント体の中間部分は、前上顎壁の最も凹んだ部分に接触しません。この上顎内上顎洞外の経路では、インプラントは以下の骨に接触します:

- 1) 歯槽稜 (頭側)
- 2) ジゴマ骨 (尾側)

ステップ 5:

